

INTERNATIONAL SCENE

世界の窓

ジャン・ファビエ ICA会長の来日

小川 千代子

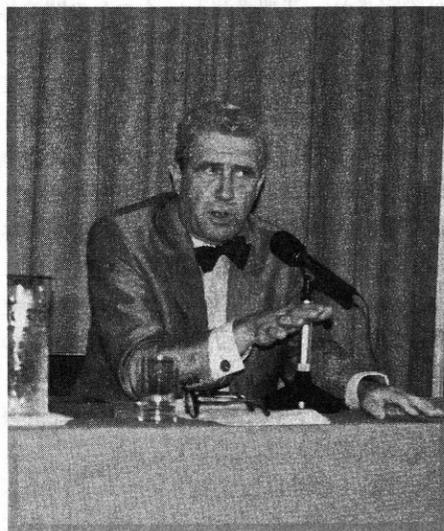
ICA会長のジャン・ファビエ氏は、1989年6月13～17日の5日間、国立公文書館の招きで来日した。前年の1988年8月に開催されたICA大会で、岩上二郎参議院議員がICA名誉メダルを授与されることが決まったが、このメダルをぜひ岩上議員に直接手渡したいというファビエ氏の意向をうけて、同氏の来日を実現したものである。

ファビエ氏は、4泊5日と極めて短い滞日期間中に、国立公文書館をはじめ、国立国会図書館、東京大学史料編纂所、国立歴史民俗博物館、茨城県立歴史館などの史料保存機関の訪問をしただけでなく、日仏会館では「中世末葉のパリ」と題して、16世紀のヨーロッパ都市の形成について国内のフランス歴史学者を集めて大講演を行った。また、皇太子や内閣官房長官との会見に臨むなど、諸方面にわたり精力的に日程を消化した。

その中でも特筆すべきは、6月15日午前、東京・六本木の国際文化会館で行われた記念講演会と歓迎レセプションで、これは、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会と国立公文書館とが共催したもの。ファビエ氏は、国内の文書館関係者にとっては、『文書館』（文庫クセジュ、永尾信之訳）の著者としてよく知られた人であり、また西洋史学者の間ではフ

ランス中世史の研究者として著名である。6月15日当日は、文書館関係者や西洋史研究者、その他公文書館法の成立に関わった関係者約150人が集まった。参集した関係者は、午前中はファビエ氏の「20世紀のアーカイヴズ—フランスの諸問題」と題する講演に耳を傾け、またレセプションではファビエ氏から岩上参議院議員にICA名誉メダルが手渡されると、満場の拍手でこれを祝福し、喜びを分かち合った。

これまでにも、イギリスのマイケル・ローパー氏、ハンガリーのイワン・ボルジャ氏、



ポーランドのウォイチェコフスキー氏、イタリアのレナート・グリスポ氏等、ICAの首脳関係者が国立公文書館を訪れているが、来日に際して講演会等を全国歴史資料保存利用機関連絡協議会と共催したのは、これが初めて。講演会は、「公文書館法施行1周年記念」と銘打って開かれたものであり、こんなとこ

ろにも、法律成立の影響が出てきたと言うべきかもしれない。

なお、国立公文書館では、89年8月、このファビエ氏来日について『ジャン・ファビエ ICA会長来日報告書』をまとめ、内外の関係方面に配布した。

おがわ ちよこ・国立公文書館

第26回CITRA (ICA円卓会議)に参加して

小川 千代子

1989年10月2～5日の4日間、第26回ICA円卓会議(略称CITRA)が、スペインの首都マドリッドのパラッシオ・コングレッソ国際会議場で開催された。CITRAは、ICAの下部組織で、各国のカテゴリーA及びB会員で構成される。ICA大会が開催されない年には毎年このCITRAが開かれている。第26回CITRAは、当初ブラジルのリオデジャネイロとされていたが、都合で急遽マドリッドで開催することになったものである。今回日本からは、国立公文書館の小玉正任館長と小川千代子が参加した。

CITRAもICA大会と同様、毎回テーマが設定され、基調講演といくつかの関連報告が行われている。今回は「国立公文書館：その制度、問題点および展望について(National/Federal Archives : systems, problems and perspectives)」をテーマに、全4日間の日程(表1)で会議が開催された。講演、報告はいずれもあらかじめ郵送配布されていたペーパーを要約する形でごく手短に行われた。これらは1988年末現在の各国々立公文書館を対象として行われたアンケートの結果を基礎にしたものであり、当然ながら、世界中の国立公文書館を知る上で重要な情報が次々と発表された(表2)。

これに続く討論は、白熱という形容詞にふさわしいものだった。国立公文書館が連邦国

家とそうでない国々の間ではいささかの隔たりがあること、その権限も西ドイツのように国が管轄するものに限定される分権型と、フランスのように国内のあらゆるレベルの史料保存機関の資料に対してその権限が及ぶ集権型の制度の存在とその諸問題については激しい議論が交わされた。「分権型・集権型」の問題は第24回CITRA(1986年)で、テーマとしてとり上げられたにも拘らず再度これが論議的となり、閉会式で採択された「第26回CITRA決議及び勧告」の冒頭にはその旨が盛りこまれている。

CITRAの目的は、ICA世界大会と同様、同じ仕事をする人々の交流にある。特にCITRAの場合は各国の国立レベルの館長どうしの交流が主眼とされている。今回のひそかな関心ごとは、参加した中国代表にむけられた。6月の出来事のためか、各国とも遠くから見守る姿勢であった。その中で、中国代表馮子直氏は私たちの方へにこにこしながらやって来た。初めは英語・通訳付きの会話だったが、うちとけるに従い、小玉氏と馮氏の間では筆談が始まり、和やかな雰囲気であった。インドネシア、フィリピン、マレーシア、マカオ、スリランカ等、アジア各国、欧米各国、アフリカや中米地域のアーキビストとの交流は各々楽しく有意義であった。

おがわ ちよこ・国立公文書館

表1 第26回国際公文書館円卓会議
「国立公文書館：その制度、問題点及び展望について」日程表

	午 前	午 後	夜
10月2日	開会式 基調報告 イタリア P・カルッチ 第1セッション 「国内史料と国立公文書館」 西ドイツ W・ブッフマン スペイン M・バスケス デパルガ	第2セッション 「アーキビスト協会と国立公文書」英国 K・ホール 「国立公文書館と都市公文書館」 オランダ J・バン・アルバダ	スペイン文化省及びコロンプス500年祭委員会主催レセプション
10月3日	第3セッション 「国立公文書館の学術上の役割」 カナダ H・ノグラ 仏 A・ラミエール ドフォンタニエ 代理 G・エルミス	第4セッション 「国内の公文書館と国立公文書館の役割」 フィンランド V・リッ ツェン ソ 連 F・M・バガノフ	マドリード市長主催レセプション
10月4日	ラグランハ セゴビア	見学旅行	
10月5日	各国アーキビスト協会代表者会議 連邦アーキビスト集会 ラテンアメリカアーキビスト集会 スペイン国立公文書館見学会	閉会式	スペイン公文書館主催 スパニッシュワインによる お別れパーティー

表3 第26回国際公文書館円卓会議参加国一覧（参加者数にはオブザーバーを含む）

国 名	参加者数	国 名	参加者数	国 名	参加者数
アンゴラ	1	ガマテラ	1	ポルトガル	2
オーストリア	1	ハンガリー	1	ルワンダ	1
ベルギー	1	アイスランド	1	セネガル	1
ベニン	1	インドネシア	1	南アフリカ	1
ボツナワ	1	イラン	2	スペイン	15
ブルガリア	3	イスラエル	2	スリランカ	1
カナダ	4	イタリア	3	スウェーデン	1
カーボベルデ	1	コートジボアール	1	スイス	1
チリ	1	日本	2	トリニダードトバコ	1
中国	2	キリバチ	1	チュニジア	1
コロンビア	1	ルクセンブルク	1	イギリス	4
コスタリカ	1	マカオ	1	アメリカ	6
キューバ	1	マラウイ	1	ソ連	2
チェコスロバキア	2	マレーシア	1	ユーゴスラビア	1
ドミニカ	1	メキシコ	2	ジンバブエ	1
エクアドル	1	オランダ	2	ザンビア	1
フィンランド	1	モザンビーク	1	モロッコ	1
フランス	2	ニカラグア	1	ブルガリア	3
ガボン	1	ナイジェリア	1	[国際機関等]	
東ドイツ	2	ノールウェー	1	ユネスコ	1
西ドイツ	3	パナマ	1	ICA	8
ガーナ	1	フィリピン	1	I FLA	1
ギリシャ	1	ポーランド	1	CIBAL	2

表2 世界各国国立公文書館の概要

1988.12 ICA調べ

国名	職員数		所蔵資料の量	資料の年代
	合計	内アーキビスト		
ヨーロッパ			書架延長(m)	
オーストリア	145	27	150,000	813-1988
ベルギー	175	66	160,000	819-1980
チェコスロバキア	94	48	25,532	13C-1980
フィンランド	90	32	38,000	1316-1980
フランス	373	85	500,000	528-1980
東ドイツ			60,000	13C-1980
西ドイツ	370	30 上級 55 初級	115,000	1500ca-1984
ハンガリー	233	95	51,000	1109-1986
アイスランド	18	6	22,000	1185-1986
アイルランド	25	7	20,000	13C-1980
イタリア	211	30	61,000	1815-1988
リヒテンシュタイン	5	2	3,000	14C-1988
オランダ	289		159,081	
ノールウェー	64	32	46,315	1189-1980
ポーランド	139		15,420	12C-20C
ポルトガル	13		30,000	9C-20C
スペイン			[376,702点]	9C-20C
スウェーデン	120	60	115,000	1130-1988
スイス	24	7	25,000	1798-1988
イギリス	410	30	125,000	1086-1988
ソ連	586		3,000 万点	11C-1985
バチカン公国	36	15		9C-1978
ユーゴスラビア	76		10,000	19C-1971
アフリカ				
ブルキナファソ	12	9		
コンゴ	7	2	635.5	1882-1988
コートジボワール	61	26	750点と印刷物2,500巻	19C-1988
ガーナ	73	6	7,000	1658-1987
ギニアビソウ	6	6		1974
ケニア	330	49	10,000	1890-1985
マラウィ	18	4	3,572 m ²	19C-1963
モーリシャス	20	10	5,000	1721-1926
モザンビーク	54	3 アーキビスト 19 基礎コース	20,000	1750-1975
シラレオネ	5	1	[5,000冊]	1787-
スーダン	160			1505-1988
タンザニア	45	10	13,000	1885-
チュニジア	11	6	4,000	-1962
ザイール	30	24	912	1880-1987
ザンビア	40	3	12,996	1887-1984
アジア				
中国	581		76,370	1368-
インド	504	116	30,000	1630-1957
インドネシア	313	20	30,000	1612-1970
イスラエル	31	11	30,000	1839-1987
日本	44	5	34,000	908-1987
韓国	122		32,000	1400-1988
パキスタン	140	15	20,000冊(ファイルで)	
シンガポール	42		5,861	1800-1985
スリランカ	13	1	10,600	1640-1988
アメリカ				
カナダ	803	120	70,936(他に各種あり)	14C-1988
アメリカ合衆国	1,200	350	1,684,200立方フィート	1770-1988
バルバドス	18	2	2,286	1647-1970
キューバ			24,445	1578-1973
グアテマラ	30	5	[8,000,000点]	
ハイチ	85	10	5,000	1779-1987
セントルチア	3		900	1806-1984
アルゼンチン	64	12	9,000	1601-1983
ブラジル	395	26	22,000	1527-1986
コロンビア	25	7	7,000	1540-1937
エクアドル	9	5	600	1570-1955
ペルー	41		8,614	1533-1987
オセアニア				
オーストラリア	380		440,000	1901-1988
パプアニューギニア	18	2	10,000	1884-1985